

恵みと報酬

2020年4月26日

序：イエス・キリストの宣教・伝道

みことばと御業

聖書（預言）としるし（奇跡）

奇跡はみことばが真実

イエスが神（の子）であることの証明

イエスはしばしばみことばをたとえによって話された
わかりやすくするため

イエス曰く：たとえで話すのは、奥義を知る人

〃 知ることがない人 とに分かれる

マタイ 13・10～15

聞くには聞くが

見るには見るが

心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じている

I. ぶどう園の労働者を雇う主人

マタイ 20・1～16

主人＝父なる神

労働者＝信者

監督＝御子イエス

ぶどう園＝神の教会

朝早く、9時、12時、3時、5時……人生の若年、青年、壮年、老年

主人と雇われた人の契約

1日1デナリ、 相当の賃金、 賃金の支払いには言及しない

賃金を支払うのは監督が代行

5時に来た人が最初～朝早くから働いている人が最後

？ ？ ？

1時間だけ働いた者が1デナリなら自分はそれの何倍も…と胸算用

あてがはずれて、主人に不満、扱いは不当だと文句（羨望、嫉妬）

主人は契約通りに支払った、不正はしていないと応答

最後の人にも、あなたと同じだけ与えたい = 厚意、恵み、賜物

報酬はその働き・業績に応じて支払われるが、恵みは違う

恵みは神の主権（自分のもので、自分の思うことを行う）

私たちが救われたのは神の恵みによる

それぞれ生涯の途中のある年齢の時

皆、平等

最後に来た人に最初に1デナリ支払った＝気前のよさの現れ

彼は法外の手厚い扱いを受けたことを感謝、短時間を懸命に仕える

最初に雇われた人は、1デナリの約束があったので安心して働けたはず

主人と自分だけの間には不満がなかったが、他の人と比べたことで妬み

II. タラントのたとえ

マタイ 25・14～30

主人＝イエス・キリスト しもべたち＝信者

旅に出る＝贖い主として御業を終えて、昇天、今地上には居られない

帰ってくる＝再臨

清算＝預けたものの収支

タラント＝能力 (1 タラント＝6000 デナリ)

各人に差がある

主人から預かったので、主人のために活用、正しく管理すべき

① 5 タラント＋5 タラント＝10 タラント

② 2 タラント＋2 タラント＝4 タラント

「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物をまかせよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」 21、23節

管理者は所有者ではない

I コリント 4・2 管理者には忠実であることが要求されます

③ 1 タラント＋0 (地面に穴を掘り、隠した)＝1 タラント

主人を信用しない。

神から託されたタラント(賜物)を死蔵・活用しない

取り上げられ、暗闇に追放される

タラントは神の恵み、しかし、しもべにはそれを活用する責任

I コリント 12章

信者にはそれぞれ、皆の益となるいろいろな異なった賜物が神によって与えられている。皆違う、そして皆必要、代替えなし

III. まとめ

ぶどう園の労務者のたとえ：私たちの救いは専ら、神の恵みによる

私たちには、救いに対するいさおしは皆無

時代、国籍、年齢、身分などにかかわらず、同じ

エペソ 2・5 あなたがたが救われたのは神の恵みによるのです。

タラントのたとえ：救われた後、与えられた賜物を用いて、よい業をなす

それは、主により評価され、報いられる(地上でも、天上でも)

ローマ 2・6 神は一人ひとり、その人の行いに応じて報いられます。